

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170200760), 法人名 (医療法人社団 豊生会), 事業所名 (グループホーム すぎの子の家 3階), 所在地 (札幌市東区東苗穂3条1丁目10-2), 自己評価作成日 (平成28年1月13日), 評価結果市町村受理日 (平成28年2月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節の行事や五感を大切にグループホームに合ったアクティビティや行事を行い、心から笑顔になれるように楽しく生活しています。
・職員一人一人が入居者様と生活を共にしている事を意識し、落ち着いた環境でゆっくりとコミュニケーションをとり、共に生活しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action kouhyou_detail 2015 022 kihon=true&JigyosyoCd=0170200760-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成28年1月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1)ホームの環境:近隣は住宅街・スーパー等商店・法人系列の病院があり生活の利便性が高い。ホームは3階建の2~3階にあり、施設・設備の介護機能性も効率的に活かして、居心地良い環境づくりに努めている。
2)職員の態度・姿勢:静かで、やさしく、ほほえみの対応に努め、個々の求めや願いに即応している。また、ホームの生活状況を家族と共有して、利用者本位の介護に努めている。
3)家族・利用者の満足:家族アンケートの結果は職員が真摯に利用者の安全と安心に配慮し、資質の高い介護に努め、連絡・報告の即応さ、生活記録のきめ細かさに満足している。
4)運営推進会議開催状況:定例に開催され、包括センター・防災関係者・家族の参加を得て、運営状況の詳細を報告している。参加者の活発な意見交流が記録され、かつ、家族に報告して運営に活かしている。
5)地域関係者との連携:当医療法人の活動として、地域高齢者向けサロン「考流学舎」を設け、交流の場・カフェを開き、利用者も参加する場として地域の人々との行事・話し合い・食事等の交流を図り、相互の出会いと刺激の場とする工夫を続け、効果を上げている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で理念を検討し、それを目の触れやすい場所に提示し、共有し日々取り組んでいます。	理念は「ゆっくり、一緒に、楽しく、豊かに」。その理念の一語に託す各職員の思いを書き出して一枚の寄せ書きとして、職員相互はその介護にかける姿勢・志を共有して実践している。	職員相互が専門業務にかける冷静な意気込みが感じられ、一層の実践向上に期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の方達にGHでの避難訓練の参加や行事ではボランティアも参加し、地域との交流を深めている。	法人が地元に関く交流サロン「考流学舎」は地域の高齢者と利用者の行事・話し合い・食事の場であり、ホーム活動等周知・理解の役割を果たしている。また地域住民組織との連携にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医療・福祉に関して法人主催の健康教室等を開催している。地域行事等に入居者様と一緒に参加する事で認知症の方の理解を深める機会となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度は運営推進会議を行い、入居者の生活状況や事故報告、評価を行い、意見を出し合っ、サービスの向上に活かしている。	会議は定例に地域包括等関係者、家族の参加を得て開催している。月例の運営状況(利用者の生活・事故・行事、防災訓練、看取り、食事等)報告には家族の意向が反映されている。議事録は家族に報告されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区担当者にも運営推進会議に参加して頂き、実情の把握とご意見を頂く等協力関係を築いている。	行政窓口との定例の運営状況報告、運営推進会議での地域包括支援センターの情報提供を運営に活かしている。また、必要に応じた利用者の支援に係る連携もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やカンファレンス等で話し合い、理解している。夜間時のふらつきの強い方、気分の高揚が著しく、転倒のリスクが高い入居者さんは家族の承諾を得た上で、ベッド横に椅子やセンサーマットを設置している。	職員は理念に沿い、利用者本位のケアの基本に立って、拘束のないケア、虐待や人権を損なうことのないケアに専念している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中、勉強会やカンファレンス等で言葉かけやケアの方法について話し合い、虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象となる入居者さんはいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず時間をとって説明し、理解していただくようになっている。待機をかける際も出来るだけ見学して頂き、ホームの概要や費用等について詳しく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議において、意見や要望を頂き、都度検討している。	面会訪問時、運営推進会議での話し合いは家族との共有理解の場として大切にしている。またホーム便り等報告・連絡事項はきめ細かな編集に留意して、家族の意向に即応する対応に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや連絡ノート、申し送り時の機会を利用して行っている。	管理者はカンファレンス会議等で利用者個々の対応課題、主たる確認・引継ぎ・記録事項を指示し、かつ、職員相互の知識・技術・経験上の意見を活かしている。職員の定着率は平均7年以上となる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職能評価し、努力や実績等を把握している。個々の目標を設定し、向上心を持ち、やりがいを持って働くように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとり、自分の目標を持ち、自信ややりがい、自分に足りない部分は何かを気付けるように努めている。法人内外の研修も、案内を提示する事で参加者を募り、積極的に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では、研修会を行い、他事業所の職員との交流を図っている。管理者は区の連絡協議会や管理者会議等に参加し、ネットワーク作りに励んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問調査を行い、了解を得た上で、多方面から情報収集を行っている。本人や家族と面談し、意見、要望を聞き、安心出来る様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談には十分に時間をとって、不安や要望を聞き、信頼し、安心して利用していただける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	意向、要望に沿えるように、支援方法を考え、早く馴染める環境になるように努めている。又、CPATを使用したアセスメントを行い、その方のニーズやケアの方向性をしっかりと把握し、初期プランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという意識を持ち、家事活動等を共に行い、毎日のコミュニケーションに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時には状況報告を伝え、体調変化や訪診時、薬変更あれば都度電話連絡している。又家族からの要望、意見を聞き、共に本人を支えるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、親戚、知人の訪問を歓迎し、居室でゆっくりできるような環境づくりを行い、可能な限り来訪して頂けるように関係の継続を支援している。元気な方は家族との外出も協力し、支援に努めている。	家族の訪問頻度には偏りがあるが、居室での出会いの時間を大切にし、推進会議の家族と共の参加、法人が開設の地域交流サロン「考流学舎」での地域の人々との出会いの創出など工夫を重ねている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格・レベル等により席替え、お手伝いの提供等を工夫をしている。皆が一体感を持って楽しめるアクティビティやその日の気分によって皆とのアクティビティが嫌な方には個別で対応し、孤立しないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのゆっくりとした関りの中で、個々の希望や話を聞き、情報の共有を図り、本人らしい暮らしをして頂けるように支援を行っている。	理念実践の取り組みは日常の利用者の生活に添い、個々の思い・願い・意向を汲みとることに努めている。一言の記録を大切にされた実践研究を全国大会で発表するなど、その成果を職員相互で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査にてご本人様や家族様から話を伺ったり、生活歴をご家族様に記入して頂き、情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムにあわせ無理のない起床、臥床に努め、穏やかに過ごして頂いている。出来る事への支援行い、記録や申し送り等で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや申し送りでの情報をケア担当者が中心となって、皆で分析し、プランの作成、見直しをしている。	職員は月例のカンファレンス会議の成果を共有し、ケアマネを軸に観察途上の変化に即応した介護計画の変更、更新などに努め、家族の理解を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、温度版、健康ファイル等を記入し、職員間で情報を共有し、プランの見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の車を利用し、外出したり、法人施設のイベントに参加している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来訪や買い物、散歩等で近隣住民と挨拶したり、町内の盆踊りにも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療には職員が付き添い、本人の様子を伝えている。病院受診は家族に付き添ってもらい、手紙等で様子を伝えている。	基本的に個々の利用者のかかりつけ医の診療を尊重して、その成果を共有している。また、入所時の協議で協力病院等の診療の承諾を得る利用者も多い。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調変化に対して、適宜看護職に相談、指示を受け、受診等につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。入院中、職員、管理者が訪問し、退院を含め、今後の方向性について話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員間、家族、医療機関との情報共有しご本人にとって一番良い方法(環境等)についてチームで話し合っている。又、家族の協力も得ている。	重度化・看取り等の同意は、入所契約と別に必要に応じて、明文化した指針に基づく具体的(医療機関・家族・ホーム等の連携協議等)な支援方法を合意して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適宜、急変時には医療機関への連絡対応はできており、スタッフルーム内には急変時対応マニュアルや夜間急変時の連絡網が置いてある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災訓練の確認を行い、発生時に備えている。	防災関係機関と共に定例的な想定訓練に努めている。医療法人本部の医療機関が近くにあり、地域防災連携や備蓄等の課題等相互の連携を図り、対応している。	防災については近年の異常な自然気象の災害も多く、関係機関と共に計画的な指示の下に、今後共地域連携を強化されるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性や尊厳を配慮し、丁寧な声掛け、対応を行っている。	職員は理念に沿った利用者との個別的关系を大切にしている。尊厳を損なうことのないよう、よく観て、聴き、尋ねて、意向を忖度できる対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	つぶやきに耳を傾け、個々の希望や思いに可能な限り対応し、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせた対応を行っている。又、可能な限り本人の思い、希望等に耳を傾けた対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容を利用して頂き、本人様にも希望を聞いている。ご家族様にも協力頂き、季節に合わせた服装ができるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に台所に立ち、野菜の皮むきや盛り付け等を行っている。誕生日にはケーキ、赤飯、ちらし寿司等提供している。	家族へのホーム便りにはニシン漬けづくりの様子が報告されている。職員は日常生活で利用者個々の生活力を活かし、利用者がその力に応じた楽しい食事の場を支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を作るようにしている。一つの食材でも色々なメニューを考え、工夫している。水分の取りにくい方にはコーヒー、ジュース、ゼリーなど提供し、水分確保に努め、水分量のチェックを行い、情報共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。夜間、義歯洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や希望した際にトイレに行っている。	個々の排泄対応は心身の状況・バイタル記録、日常の動作等に留意した自然な対応に努めている。また布パンツやトイレでの対応など自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルト、冷牛乳を提供している。体操や腹部マッサージ、温罨法を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	調子の良い日に無理をせず、入浴している。浴槽に入れない方は足浴をしながら、シャワー浴を行っている。	入浴支援は体調やバイタル記録等に留意し、個々の気分や望みに応じた、自然な対応で足浴・シャワーなど楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考え、疲労感が見られる時は臥床している。入床、起床も本人のペースに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	健康ファイルの薬表を見て、ひとり一人の薬を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動やアクティビティ等、ひとり一人に合った物を提供し、楽しみが持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の思い出の場所や好みの場所への外出や季節毎の花見などの外出行事を行っている。 近隣への散歩や、地域交流として考流学舎での1丁目カフェやワクワク広場への参加もしている。	年間計画を家族にも周知するよう努め、楽しみ多い(花見・外食・買い物等)外出となるよう努めている。日常では、先の地域交流サロン「考流学舎」での地域の高齢者との交わりなどの支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者は管理が困難であるが、可能な方には家族に説明し協力を得て、自己管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたたり、取り次いでいる。 季節の絵はがきや年賀状を作成して送っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエなどを参考にしてスタッフと入居者で制作した物や飾りを貼っている。 季節を取り入れた飾りをしている。	居間は居室の中心に位置し、中庭を挟み、南に面して温・湿度管理や採光に留意されている。利用者は馴染みの場として、自己の作品や季節に応じた飾り付けを楽しみ、食事の準備に参加するなど日常の居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダ前や台所前などに椅子を設置し、自由に座って過ごせる様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や思い出の写真などを置いてもらい、自宅の雰囲気近く、安心出来るように心掛けている。	ベッド・ロッカー・椅子・鏡台・家族や馴染みの風景写真額など馴染みの物が配置され、家族の協力を得て、個々の雰囲気になじむよう支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下などに手すりを設置している。 居室やトイレに表札をつけて、場所が分かるよう工夫している。		